

北部九州における炭坑札の概観（一）

稲富，清
安川電機製作所小倉診療所長

<https://doi.org/10.15017/13665>

出版情報：エネルギー史研究：石炭を中心として．9，pp.98-102，1977-12-04．エネルギー史研究会
バージョン：
権利関係：

北部九州における炭坑札の概観 (一)

稲 富 清

目次

- 一 はじめに
- 二 炭坑札とは
- 三 文献上の炭坑札(以上本号)
- 四 現存している炭坑札の状態
- 五 炭坑札の各種パターン
- 六 当時の炭坑夫の生活状態
- 七 推理、推定、推計を試みる
- 八 むすび

一 はじめに

古貨幣の蒐集・研究の趣味から出発して、はからずも炭坑札の調査研究に踏みこんで了った。私は、昭和二十一年戦地より復員するとすぐ三菱の飯塚炭坑病院に奉職し、その後二十二年間炭坑の人々と共に生活して来たのであるが、炭坑札の所有者は少数宛所持して、横の連繋もなく、その意義づけもなされなままになっていたので、筑豊地区から炭坑が殆んど消失して了った今日、炭坑札の実体を総合的に調査研究しておくことは将来のために大切なことであろうという意図から調査研究に着手したのである。

貨幣研究会の人々や各地の公的資料室、一般巷間の炭坑札所有者の方々から絶大なる御協力を得て、昨年三月「北部九州の炭坑札」第一輯を上梓した。更に九月に第二輯、本年三月に「改訂北部九州の炭坑札」を上梓して一応の完結を見た。その時点で九州大学 秀村教授の御要請をうけたので、その概観的展望を試みることにした。それには炭坑

札の種類や様式に関する事ばかりでなく、一つは金券として炭坑経営や炭坑の生活に果して来た炭坑札の役割についても説明したいと思う。私は医師であり、歴史学にも経済学にも全くの門外漢であるので、鉄面皮なと思われるかもしれないが、敢えてお許し願いたい。

二 炭坑札とは

炭坑札とは一言にしていえば個々の炭坑が発行した金券である。近代石炭産業の発展、即ち炭坑経営に重要な役割を演じたものといつて過言でなく、一方では又従業員の生活を苦しめた元凶であるといつても過言ではない。明治三十一年五月発行の高野江基太郎著『筑豊炭礦誌』に記載されている文をそのまま引用すれば、「石炭札は会計法の便宜により、仮に発行する炭券にして、日々採炭額を精算し、その賃金として石炭一千斤を一円とし、切符を以て之を支払い、毎月二回現金に引換えるものである」となっている。

この金券は炭坑では斤券・炭券・山札・採炭切符とも呼ばれていた。厳密にいうと、炭坑札の中には(1)石炭札とも称する斤量表示の前記斤券(炭券・採炭切符)があり、他に(2)円銭単位表示の札(通常購買券)が多い。支払切符と称するものもあるがあるので、この二つを総称して炭坑札というのが正しいと考えている。

斤量には五千斤・三千斤・千斤・五百斤・三百斤・二百斤・百斤・五十斤・三十斤・二十斤・十斤・五斤・三斤・二斤・一斤、円銭単位には一円・五十銭・二十銭・十銭・五銭・二銭・一銭・五厘の表示種類がある。炭坑夫々によって発行種類は異なり、その中の五乃至十二種類を採用している。因みに一斤は百六十匁Ⅱ六〇〇gであり、千斤Ⅱ〇・六屯、一屯Ⅱ一六六六斤である。

三 文献上の炭坑札

現在のところ、元炭坑主所蔵の古文書などの調査までは手が届いていない。文献で特筆に値するのは明治三十一年五月に発行された前述の『筑豊炭礦誌』である。これには炭坑名、従業員、設備規模、炭坑札発行の実態、賃金や生活の実態、厚生施設、出炭量、当時の社会情勢など非常に詳細に調査記述してある。その中炭坑札について抜粋してまとめたのが表(1)である。

これによると、明治三十年時点で炭坑札発行の炭坑数約七十坑、その他不詳約二十坑(恐らく発行済み)であって、発行しなかったのは三菱系(新入、鯉田)、古川系(下山田、目尾、勝野)の炭坑位のものである。発行された種類は四百〜四百五十種の範囲にあり、炭坑数は約百坑である。

因みに江戸時代はどうであったであろうか。天保二年小倉藩金田手永(現田川郡金田町)では石間歩札にかえ納差札を発行したと記録にあるが、未見である。昭和三十年頃鞍手郡小竹町のある旧家から福岡藩札に墨書で石炭〇〇と書かれた札が数枚出たという事を聞いたことがある。拙著三月刊行の時点では、今はその行方は分らないが、いづれの日か江戸時代の藩札や福岡藩のものが見出される可能性はあると記載しておいた。所が昨年八月初めに福岡市博多区の方から連絡があり、福岡藩札に墨書されたものを拝見した。後章に於て私は私りの判断を示してみようと考えているが、その真実に関する決定は今暫く時間を得て大方諸賢の意見を俟つより他はない。

炭坑札の発行は概ね明治十五年頃からと考えてよく、大正八年迄を最も盛んに発行された時期とし、大正八年以後も昭和三十年頃まで、炭坑によっては購買券等、形をかえて賃金の一部分に使われた事実がある。このことについては後で詳しくのべることにする。

(表1)

高野江基太郎著『筑豊炭礦誌』(明治31年5月)に記載されている炭坑札の表

炭坑名	坑夫数	石炭券(切符)発行の種類	現金交換日	所在地	備考 坑主
第一大辻炭坑	400人	一千斤、五百斤、二百斤、百斤、五十斤、十斤、五斤、三斤、一斤の9種	1日 16日	遠賀郡 中間	貝島太助
第二新手炭坑	360人 (男300女60)	千斤、五百斤、二百斤、百斤、五十斤、三十斤、十斤の7種	1日 16日	中間	谷茂平
第一大隈炭坑	150人 (男80女70)	五百斤、二百斤、百斤、五十斤、十斤の5種		下大隈	中西七太郎
第二大隈炭坑	130人	第一大隈炭坑に同じ		楠橋	中西七太郎
新大隈炭坑	150人 (男6:女4)	無し		下大隈	石井儀三
第二大辻 香月炭坑	300人	第一大辻炭坑に同じ		香月	貝島太助
第三大辻 中間炭坑	100人	大辻香月に同じ	5日 20日	中間	貝島太助
坪内 中間炭坑		千斤、五百斤、百斤、五十斤、十斤の5種	1日 16日	中間	坪内安久
鳳凰炭坑	100人	千斤、五百斤、二百五十斤、二百斤、百斤、五十斤、三十斤、十斤の8種	1日 16日	中間	友保市次郎
吉田炭坑	200人	千斤、五百斤、二百五十斤、百斤、五十斤、二十斤	15日 30日	水巻吉田	島田孫六
鯉口炭坑	30人	五百斤、百斤、五十斤、二十斤、十斤、五斤	1日 16日	水巻吉田	下沢善四郎
多賀野炭坑	200人 (男7:女3)	千斤、百斤、五十斤、十斤の4種	1日 16日	水巻札	飯野又七
深坂炭坑	100人 (6:4)	千斤、五百斤、三百斤、二百斤、百斤、五十斤、十斤		中間	千住喜作

炭坑名	坑夫数	石炭券(切符)発行の種類	現金交換日	所在地	備考 坑主
馬場山 香月炭坑	200人 (6:4)	五百斤、三百斤、二百斤、百斤、五十斤、 十斤、五斤の7種	1日 16日	香月 馬場山	中野政吉
長浦炭坑	150人	不詳		香月 馬場山	境田サク
緑炭坑	80人	不詳		楠橋	中西七太郎
黒川炭坑	50人 (7:3)	不詳		楠橋	蔵内次郎作
岩崎炭坑	100人	不詳		中間	岩崎久米吉
頃末炭坑	73人	使用すれど不詳	2日 17日	水巻頃末	下沢善四郎
朝日炭坑	120人 (7:3)	千斤、五百斤、百斤、五十斤、十斤、 五斤の6種	5日 20日	頃末	橋口伊助
福好炭坑	70人 (6:4)	不詳		水巻古賀	長谷川芳之助
大君炭坑	75人 (6:4)	他坑に同じ 使用	1日 16日	山鹿村 高須	春田 惟
日の出炭坑		不詳		矢矧村 戸切	吉田千足
新立炭坑	100人 (6:4)	不詳		矢矧村 戸切	村田恒夫
新入炭坑	2,289人	切符発行せず	3日 17日 現金払	鞍手郡 剣村中山	三菱合資会社
本洞炭坑	430人	不詳		下塚村 赤池	許斐鷹助
第一天の浦 菅牟田炭坑	590人 (7:3)	五百斤、三百斤、百斤、五十斤、 三十斤、十斤の6種	3日 18日	香井田村 鶴田	貝島太助
大の浦炭坑	85人 (7:3)	全上		宮田村 上大隈	貝島太助
勝野炭坑	429人	現金払い、切符発行せず	3日 18日	勝野村 勝野	古河市兵衛
日焼炭坑	260人 (7:3)	千斤、五百斤、二百斤、百斤、五十斤、 十斤の6種	1日 16日	本洞の近く	秋田 歙三郎
藤棚炭坑	610人 (7:3)	千斤、五百斤、四百斤、二百五十斤、 百斤、五十斤、三十斤、二十斤、十斤	1日 16日	下塚村 中泉	長谷川 芳之助
赤池炭坑	88人	不詳		勝野 赤池	長綱好勝
鴻の池炭坑	60人	五百斤、(二百斤)、百斤、五十斤、 十斤の5種		御徳	貝島伊平
御徳炭坑	260人 (7:3)	(千斤)、五百斤、二百斤、(百斤) 五十斤、二十斤、十斤の7種		御徳	堀 三太郎
第一天の浦 桐野炭坑	463人	発行(菅牟田炭坑に同じ)	2日 18日	笠松村 四郎丸	貝島太助
第二天の浦 大谷炭坑	365人 (7:3)	発行(" ")		四郎丸	貝島太助
白鶴炭坑	270人	千斤、五百斤、二百斤、百斤、五十斤、 三十斤、十斤の7種	1日 16日	宮田村 宮田	秋田 歙三郎
宮田炭坑	220人	千斤、五百斤、二百斤、百斤、五十斤、 十斤の6種	1日 16日	宮田	広海二三郎
頓野炭坑	100人	不詳		頓野村 頓野	井上 勇太
金剛炭坑	257人	千斤、五百斤、二百斤、百斤、五十斤、 十斤、五斤の7種	1日 16日	木屋の瀬村 金剛	加藤周助
塩頭炭坑	70人	切符を発行せず	月3回 1の日	勝野村 勝野	古河市兵衛
杓抜炭坑	不詳	不詳		" 勝野	古河市兵衛 小竹探炭組合
繁牟田炭坑	200人	五十銭、二十銭、十銭、五銭の4種		" 勝野	帆足豊吉
三笠炭坑	260人	千斤、五百斤、二百斤、百斤、五十斤、 十斤、五斤の7種	1日 16日	西川村 八尋	井上友次郎
旭炭坑	40人	不詳(元古川嘉平所有)		" 八尋	尾上安太郎
大谷炭坑		不詳		西川村	小寺幸次郎

炭坑名	坑夫数	石炭券(切符)発行の種類	現金交換日	所在地	備考 坑主
笠松炭坑	320人 (6:4)	千斤、五百斤、二百斤、百斤、五十斤、十斤、五斤の7種	2日17日	笠松村 四郎丸	関西骸炭(佛)
室木炭坑	160人	五百斤、二百斤、百斤、五十斤、二十斤、十斤の6種	1日16日	西川村 室木	服部氏守
鯨田炭坑	1,184人 (850:334)	切符発行せず	16日30日	嘉穂郡 笠松村鯨田	三菱合資会社
目の尾炭坑	130人	切符発行せず	15日30日	大谷村 目の尾	古河市兵衛
庄司炭坑	180人 (7:3)	五百斤、二百斤、百斤、五十斤、十斤の5種	1日16日	大谷村 庄司	住友 吉右エ門
相田炭坑	30人	不詳		二瀬村 相田	松本 潜 伊藤 伝六
大谷炭坑	35人			大谷村 目の尾	豊島才吉
鬼山炭坑	少数			穂波村 平垣	中野 徳次郎
高雄炭坑	580人	数種発行	2回 現金換	二瀬村 幸袋	三菱合資会社 中野 徳次郎
南尾炭坑		本坑は元木村定房氏 開坑は27年 30年6月麻生氏に移る。切符発行せず	現金支払	穂波村 南尾	麻生 光二郎
楽市炭坑		五百斤、(二百斤)百斤、五十斤、十斤の5種	1日16日	穂波村 楽市	川越 与四郎
潤野炭坑	200人	千斤、五百斤、二百斤、百斤、五十斤、二十斤、十斤の7種	3日18日	鎮西村 潤野	広岡 信五郎
花瀬炭坑	90人	五百斤、二百斤、百斤、五十斤、十斤、五斤の6種	15日30日	潤野	矢野 市次郎
平恒炭坑	280人	千斤、五百斤、三百斤、二百斤、百斤、五十斤、三十斤、二十斤、十斤、五斤、一斤	1日16日	穂波村 平垣	山本周太郎 他4人
牟田炭坑		不詳		鎮西村 潤野	中村 五平
後牟田炭坑		数種他坑と同じ		潤野	大矢 孫十郎
小正炭坑		他坑と同じ	2日16日	潤野	住友 吉右エ門
碓井炭坑	481人	五百斤、二百斤、百斤、五十斤、十斤の5種	15日30日	碓井村 碓井	三菱合資(佛)
桂川炭坑	160人	五百斤、二百斤、百斤、五十斤、十斤、五斤の6種	1日10日	桂川村 土師	松尾 浩幹
集丸炭坑	120人	千斤、五百斤、二百斤、百斤、五十斤、十斤の6種	15日30日	土師	城野 琢磨
笹原炭坑	男80人 女10人	千斤、五百斤、百斤、五十斤、二十斤、十斤、五斤の7種	1日16日	碓井村 方田	山本 兵九郎
上三緒炭坑	385人	五百斤、二百斤、百斤、五十斤、十斤、五斤の6種	1日16日	笠松村 上三緒	麻生 太吉
芳雄炭坑	200人	上三緒と同じ		鯨田	麻生 太吉
嘉麻炭坑	70人	不詳(恐らく上三緒と同じ)		上三緒	麻生 太吉
忠隈炭坑	男450人 女200人	千斤、五百斤、二百斤、百斤、五十斤、十斤の6種	随時	穂波村 飯塚	住友 吉右エ門
大城炭坑	300人	五百斤、三百斤、二百斤、百斤、五十斤、十斤、五斤、二斤、一斤の9種	月3回 1日	穎田村 勢田	明治炭坑(佛)
牛隈炭坑	48人	他坑と同じ	月2回	大隈村 牛隈	古野 与太郎
下山田炭坑	350人	他坑の如く切符を発行せず。	5日20日 現金支払	熊田村 下山田	古河市兵衛
益富炭坑	60人	千四、五百斤、二百斤、百斤、五十斤、十斤の6種	3日17日	碓井村 上西郷	爪生 卯太郎
嘉穂炭坑	300人	1銭相当より1円相当直、数種発行	1日16日	稲築村 山野	原田 茂俊
田川採炭々坑	1990人	五百斤、二百斤、百斤、五十斤、十斤の5種	月末	田川郡 弓削田村奈良	福島 長助
起行炭坑	900人 (7:3)	一万斤、五千斤、千斤、五百斤、二百斤、百斤、五十斤の7種	5日25日	弓削田村 奈良	久良知 寅次郎
小松ヶ浦炭坑	200人 (7:3)	五百斤、百斤、五十斤、二十斤、十斤、五斤、一斤、半斤の8種	1日16日	川宮	武腰 寅次郎

炭坑名	坑夫数	石炭券(切符)発行の種類	現金交換日	所在地	備考主
金谷炭坑	600人 (7:3)	切符発行他坑に同じ	毎月二回	神田村 金田	谷茂平
金田炭坑	530人 (8:2)	五百斤、百斤、五十斤、十斤、五斤、一斤の6種	月3回 6の日	金田	毛利元照
赤池炭坑	1148人 (7:3)	千斤、五百斤、二百斤、百斤、五十斤、十斤の6種	月3回 1の日	上野村 赤池	安川敬一郎
豊国炭坑	822人 (467:355)	千斤、五百斤、二百斤、百斤、五十斤、十斤の5種	月3回 1の日	糸田村	平岡浩太郎
峯地炭坑	480人	五千斤、千斤、五百斤、二百斤、百斤、五十斤、十斤の7種	1日、16日	弓削田村 川宮	藏内次郎作
位登炭坑	30人	二千斤、百斤、五十斤、十斤、五斤の5種	1日 16日	猪位金村 位登	長谷川敬治
豊州炭坑	150人 (6:3)	千斤、五百斤、百五十斤、百斤、五十斤、二十斤、十斤の7種	1日 16日	川崎村 池尻	豊州炭坑(株)
牛の浦炭坑	200人 (8:2)	切符発行せず、証明書で購買可能		池尻	" "
鮎池炭坑	110人 (80:30)	千円、五百斤、三百斤、二百斤、百斤、五十斤、二十斤、十斤、五斤の9種	1日 16日	池尻	" "
糸飛炭坑	250 (7:3)	千斤、五百斤、百斤、五十斤、十斤、五斤の6種	月3回 1の日	金川村 夏吉	松尾敏幸
扶桑炭坑		三十斤、十斤、五斤、一斤を補助貨幣の代用とした。		勾金村 中津原	大島兵吉
上位登炭坑		位登炭坑と同じ発行	月2回	猪位金村 上位登	村田為吉
小倉炭坑	400人 (7:3)	千斤、五百斤、百斤、五十斤、十斤、五斤の6種	1日、16日	企救郡 足立村	筑豊炭坑 株式会社
足立炭坑	250人	三千斤、二千斤、千斤、五百斤、三百斤、二百斤、百斤、五十斤、三十斤、二十斤、十斤、五斤の12種	10日、25日	足立村	藏内次郎作

(八一頁より)

中の産額は一、八三五、四三六、七〇一斤なりしに、六月は一、三四二、五三七、四七三斤となり、実に四九二、八九九、二二八斤の激減にして、其減少率実に三割六分となる。尤も風水害等に依り止むを得ざる原因をなせるは勿論なりとす。今本県の産額を示せば左の如し。

芳谷 七四、二六三、九六三
 杵島 六、九〇四、五八〇
 久原 四、九七六、五二二
 相知 四八、一七六、四〇二
 杵島第二坑 三九、八四三、八六〇
 岩屋 一八、四三四、三八〇

大正三年八月五日 唐津港の特別輸出

東松浦郡唐津港における七月中の特別輸出は艦船売込額は外国七六、六五九円内地三二、二二一円計一〇八、八七九円にして、これを前月に比すれば外国船に於て七、一三一円、内地船において一七、一九三円、計二四、三二四円の増加を示せり。今之を品別に示せば左の如し。

品名 外国船売込 内地船売込
 石炭 七五、六七〇 二九、〇一七
 (略)

因みに同月中外国船に売込たる数量は飲料水四〇〇トン、石炭一〇、八〇〇トンにして、内地船は飲料水三三〇トン、石炭四、六一〇トンなりと。

(次号へつづく)